

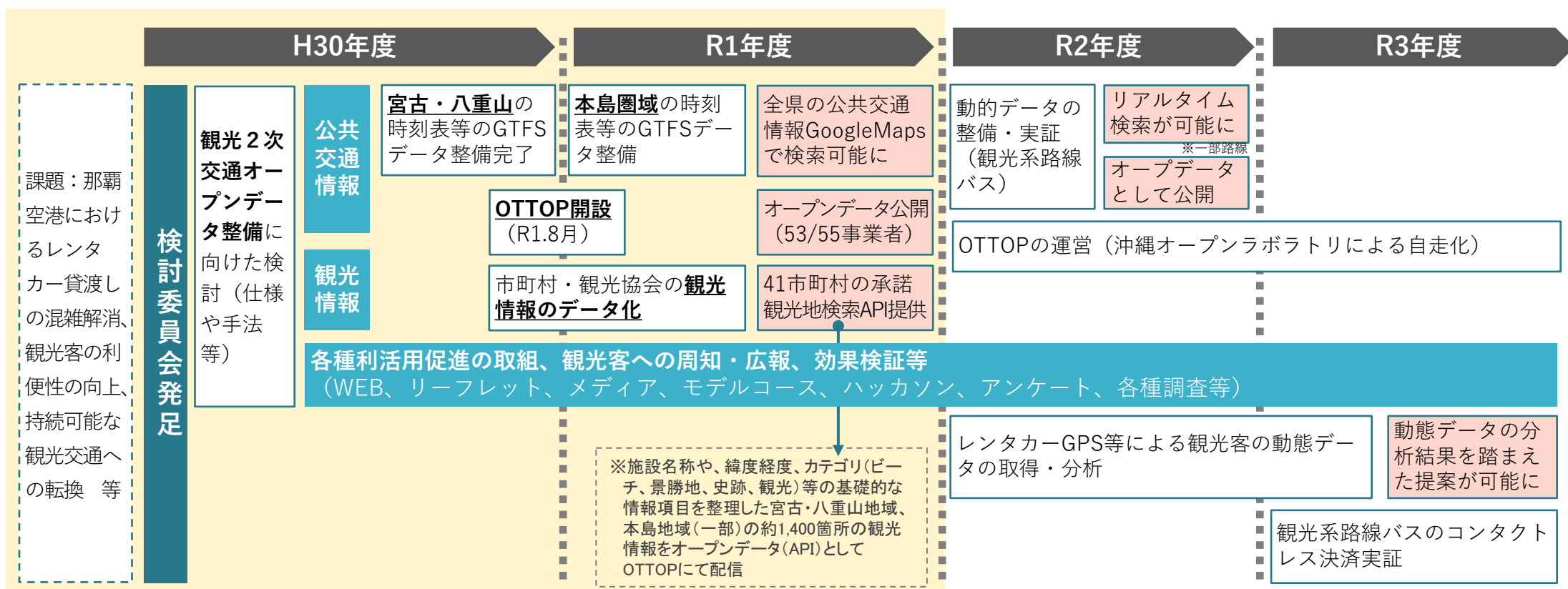
令和4年度 第1回 沖縄観光 2 次交通の利便性向上に向けた検討委員会

今年度の取組方針

令和 4 年 9 月 30 日

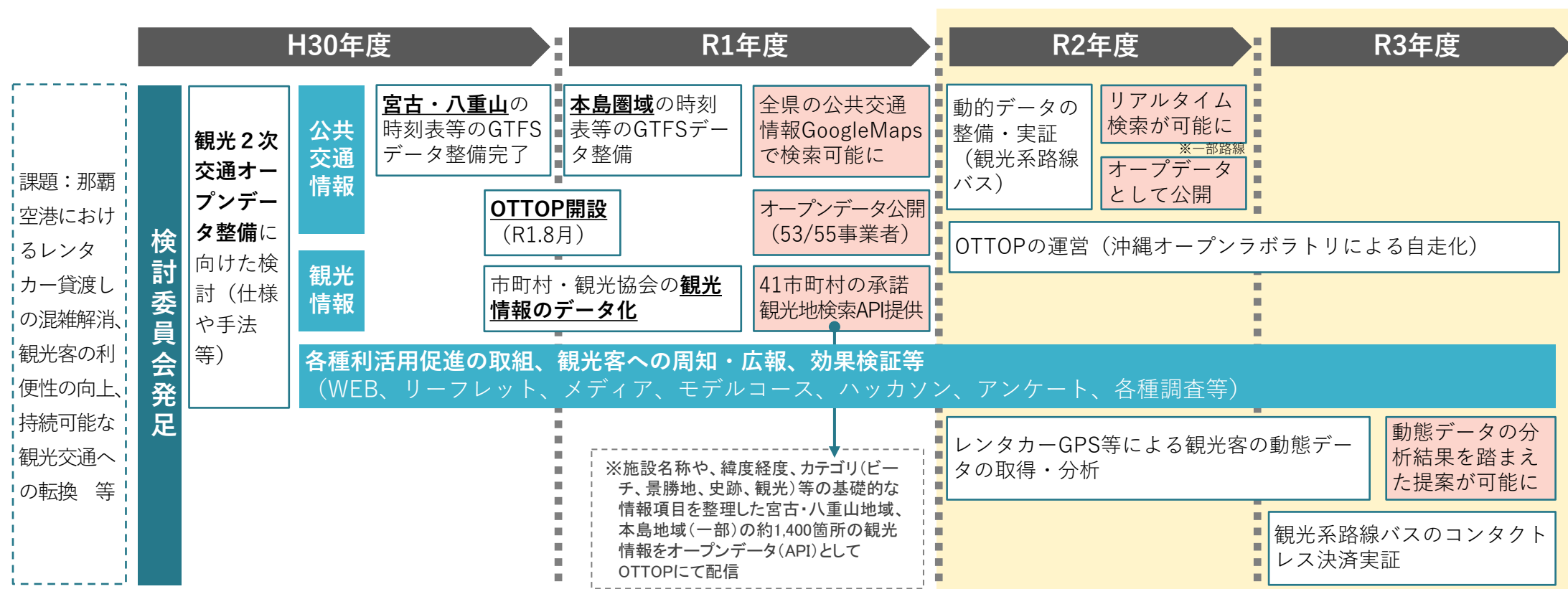
1. 昨年度までの取組内容（観光2次交通機能強化事業・オープンデータ整備事業）

- ❖那覇空港におけるレンタカー貸渡しの混雑や、観光客の利便性の向上、持続可能な観光交通への転換など、本県の観光2次交通に関する課題解決に資する取組として、平成30年度より**観光2次交通の機能強化、オープンデータ整備**等に取り組んできた。
- ❖公共交通による観光地アクセスの不案内を改善するため、公共交通情報、観光情報を汎用性のある標準的なフォーマット（Google等の検索サイトが取込やすいGTFSと呼ばれる形式など）で整備。
- ❖時刻表等の公共交通情報はH30年度に宮古・八重山圏域、R1年度に本島圏域と2年かけて全県のデータ整備を完了。
⇒**Googleマップでは県内全公共交通情報（+由布島水牛車）が検索可能に。**
⇒R1年度にデータを提供するプラットフォームとして公開を開始した**OTTOP（沖縄観光2次交通オープンデータプラットフォーム）においてオープンデータとして公開。**
⇒また観光情報については、OTTOP内で観光地検索のAPIとして提供



1. 昨年度までの取組内容（観光2次交通機能強化事業・オープンデータ整備事業）

- ❖ OTTOPについては、H30年度、R1年度の事業を踏まえ、一般社団法人沖縄オープンラボラトリにて運営開始（R2年度より）。また、R2年度の事業では、R1年度までの基盤を踏まえ、公共交通検索をさらに発展させるためのデータ整備として、観光系路線バス会社等を対象とした動的データ（リアルタイム情報、遅れを含む検索）の実証を実施。リアルタイム情報については、標準的なフォーマット（GTFS-RT形式）にてOTTOPにおいてオープンデータとして公開。
- ❖ さらには、今後の観光2次交通等に関わる検討を行う上での実態把握として、**観光客の動態データの取得・分析**をR2年度、R3年度と実施。レンタカー事業者と連携した動態データの取得等を行い、各年5,000件程度のデータを用いて観光客の滞在・周遊状況等を分析。
- ❖ R3年度からは、公共交通観光のさらなる利便性向上、新しい生活様式への対応として**観光系路線バス会社を対象としたVisaタッチ等のコンタクトレス決済導入に係る実証**を開始。
- ❖ これらの取組について、**各種利活用促進の取組、観光客への周知・広報、効果検証**などと併せて取り組んできた。



1. 昨年度までの取組内容（観光2次交通機能強化事業・オープンデータ整備事業）

【参考：これまでの主な取組内容・成果（1/4）】

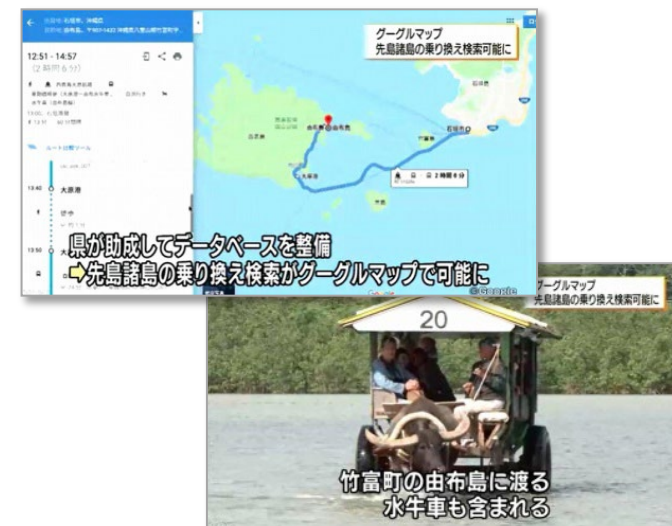
①公共交通について、県内50を超える全事業者（バス、船舶、モノレール）のデータ整備（GTFS形式）を完了

→本島・離島全域の全公共交通機関のGoogle Mapsでの乗換検索が可能に

→賛同の得られた全事業者の公共交通オープンデータ（GTFS形式）を公開（※2社を除く）



琉球新報 令和元年8月23日朝刊



NHKニュース 令和元年8月29日

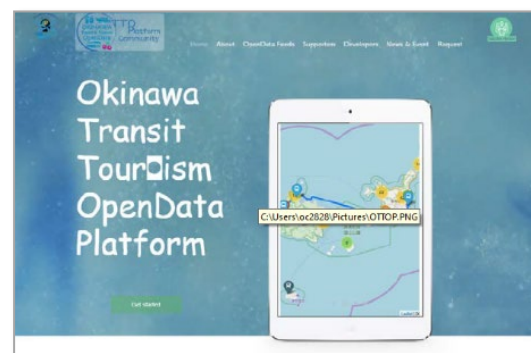
②観光情報のオープンデータとしての公開について県内全41市町村より賛同・承諾（地域の観光WEBサイト等において発信している情報）

③これらの観光2次交通オープンデータを公開するプラットフォームとして「Okinawa Transit Tourism Opendata Platform (OTTOP)」を開設（令和元年8月より）

→GTFS等のダウンロード機能に加え、利用者がデータを利活用しやすくなるようなAPIを開発・公開

→定期的な利活用（アクセス、ダウンロード）を確認。
令和2年3月に設置した那覇空港国内線の公共交通情報のデジタルサイネージにもOTTOPのオープンデータを活用。

▼空港サイネージの情報提供にOTTOPのオープンデータを活用



1. 昨年度までの取組内容（観光2次交通機能強化事業・オープンデータ整備事業）

【参考：これまでの主な取組内容・成果（2/4）】

④本取組およびオープンデータの周知広報や利活用促進を図るための各種取組の実施

- 観光客向けの公共交通を利活用したモデルルートの構築と発信
（本島及び周辺離島・宮古・八重山にて作成。英語・繁体語版も作成。全32コース）
- 公共交通による観光検索が便利になったことの発信（WEB、リーフレット、車内・船内掲示、ガイドブック掲載等）

▼モデルルート



▼観光2次交通ポータルサイト(WEB)



▼リーフレット



▼車内掲示



▼ガイドブック掲載

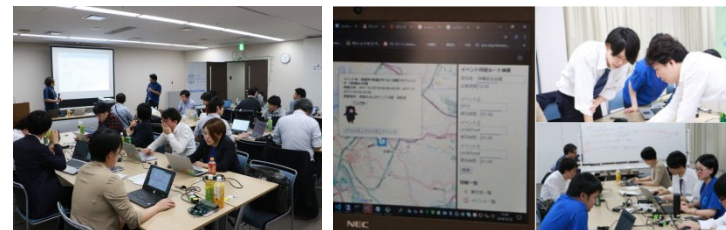


- オープンデータの利活用促進のためのアイデアソン、ハッカソンの開催

⑤県内の交通事業者、観光関係者、地域とのコミュニティづくり（関係構築）

- 本島、宮古、八重山等において、交通事業者、観光関係者、地域関係者等との勉強会や意見交換
- 補助事業者による、個別事業者ごとのハンズオン支援

▼ハッカソンの様子



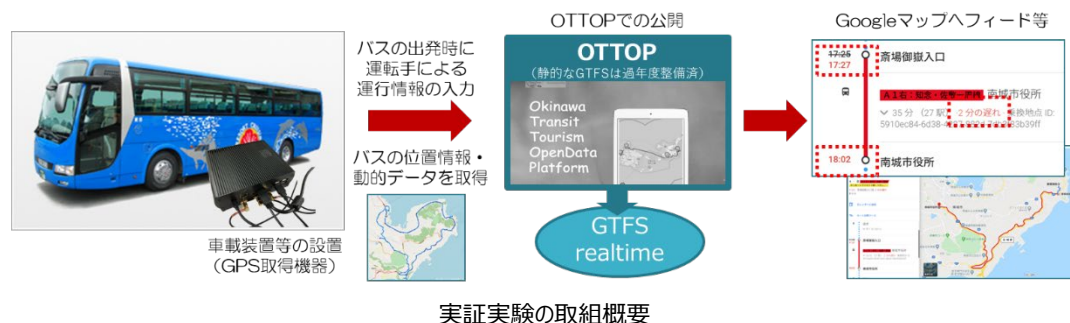
▼地域での勉強会の様子



【参考：これまでの主な取組内容・成果（3/4）】

⑥ 動的データ整備実証

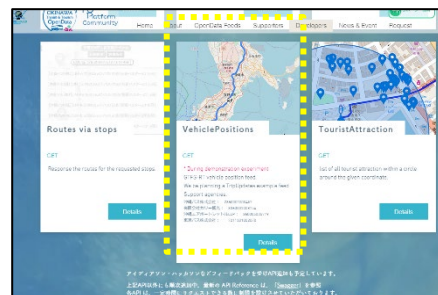
- 公共交通の利用促進及び観光客の移動利便性向上を目的とし、主に空港を発着する観光客の利用が多い路線バス（以下、「観光系路線バス」）において、「OTTOP」を活用し、動的データ整備に関する実証実験を実施。
- 観光系路線バスは、5事業者を対象とし、実証実験の対象とする車両は、各事業者と協議の上、計46台の車両とした。



- 動的データ整備の結果、バス車両の遅延情報が加味された検索結果が表示可能。
- 取得した動的データを、OTTOPでGTFS-RT形式で提供するとともに、Googleマップへ提供。※一部路線



動的データ整備前（左）、整備後（右）の検索結果



動的データのOTTOPでの公開

⑦ 観光客の動態データの取得及び分析

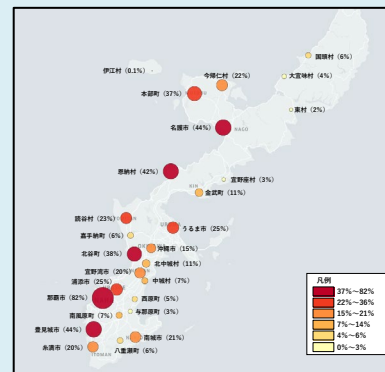
- 今後の観光2次交通に係る課題解決、利便性向上等に資する基礎的データの取得を目的に観光客の動態データを収集し分析を実施。

レンタカーGPSによる動態データ取得および分析

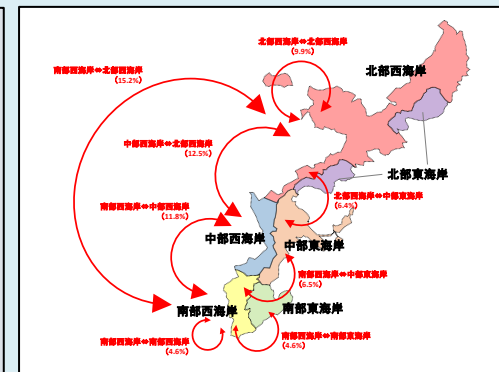
- レンタカー事業者と連携し、承諾を得たレンタカー利用客の位置情報データの取得及び分析を行った。
- 令和2年度に取得した5,115件のデータをもとに立ち寄りや周遊状況について分析。



データ取得の概要



自治体別の滞在状況



圏域別の周遊パターン

【参考：これまでの主な取組内容・成果（4 / 4）】

⑧ 観光系路線バスのコンタクトレス決済導入に係る実証実験

・ウィズコロナ・アフターコロナの新たな生活様式への対応及びインバウンド需要回復を見据え、観光系路線バス5社において、コンタクトレス決済（非接触型）の導入に関する実証実験を令和4年2月1日から3月24日の間で実施。結果、実証期間中、4,237件の利用実績があった（対象5社の合計。Visaタッチ1,325件、QRコード3,022件）。



ご利用いただけます

クレジットカード
(Visaのタッチ決済のみ可能)

VISA

このマークが印刷されているVisaカードで道路の支払いが可能です。

QRコード

PayPay

Alipay

画面下のマークにタッチ対応のカードをかざしてください

沖縄県では、観光客の公共交通の利便性向上及び利用促進を図ることを目的として、令和4年2月1日～3月24日まで、クレジットカード等のコンタクトレス決済導入に係る実証実験を実施。

沖縄県
観光振興課

Be Okinawa

沖縄県
令和4年1月31日
沖縄県文化観光スポーツ部
観光振興課

Be Okinawa

「観光系路線バスにおけるクレジットカード等の
コンタクトレス決済導入に係る実証実験」の開始について

沖縄県では、観光客の公共交通の利便性向上及び利用促進を図ることを目的として、令和4年2月1日（火）から、観光客の利用が多い那覇空港を発着又は経由する一部路線バス（観光系路線バス）において、クレジットカード等のコンタクトレス決済を利用可能とする実証実験を実施いたします。

本実証実験では、路線バス事業者5社の協力の下、現在、世界的に普及が進んでいるタッチ決済機能のあるクレジットカードなどを利用して、キャッシュレスで路線バスに乗車できる環境を構築し、その導入効果を検証します。

公共交通でのコンタクトレス決済の普及により、乗務員と乗客の接触が低減され、安全・安心・快適に路線バスを利用できる環境の構築に繋がります。

また、キャッシュレス化により、公共交通の利用状況を定量的に把握、分析することが可能となることから、引き続き、公共交通の利便性向上を通じて、観光客の公共交通の利用促進を図ってまいります。

記

【実証実験の概要】

■日 時：令和4年2月1日（火）～令和4年3月24日（木）
※実証実験の進捗状況等により、終了時期が変更となる場合があります。

■本実証実験の協力バス事業者：〔社名は50音順に記載〕

- 沖縄エアポートシャトル有限責任事業組合
- 沖縄バス株式会社
- 有限会社カリー観光
- 東京バス株式会社
- 合同会社やんばる急行バス

■本実証実験で導入する端末により利用できる決済手段

：Visaのタッチ決済、各種QRコード（二次元コード）決済
※各種QRコード決済の内容や利用方法等については、別紙参照。

■本リリースに関するお問い合わせ

沖縄県文化観光スポーツ部観光振興課
担当：石原、仲里 TEL：098-866-2764 FAX：098-866-2765
オリエンタルコンサルタンツ・沖縄観光コンベンションビューロー共同企業体
担当：松田、佐藤 TEL：098-840-2503 FAX：098-840-2517

別紙

【対象となるバス会社・対象となる路線】
対象となるバス会社と対象路線は以下となります。

対象となるバス会社	対象路線
沖縄エアポートシャトル有限責任事業組合	リゾートライナー、エアポートライナー
沖縄バス株式会社	空港リムジンバス（全路線） ※空港リムジンバスの沖縄バス販売所窓口への実証導入となります。 ※バス車内での決済はできませんので予めご了承ください。
有限会社カリー観光	北谷ライナー、瀬長島ライナー、ノバルコンティンヤルバス
東京バス株式会社	ハーレーエクスプレス、ウミカジャライナー
合同会社やんばる急行バス	空港線、四島線

※一部の路線、便ではご利用いただけない場合もあります。

【本実証実験において導入する端末により利用できる決済手段】
今回の実証実験において導入する端末により利用できる決済手段決済手段は以下となります。
なお、以下の決済手段以外にも、QRコード決済や電子マネーによる決済、事前予約（クレジットカード決済）が可能です。各社によってご利用可能な決済手段が異なりますので、詳しくは各社のHP等をご確認ください。

バス会社	本実証実験において導入する端末により利用できる決済手段
沖縄エアポートシャトル有限責任事業組合	Visaのタッチ決済
沖縄バス株式会社	（販売窓口のみ）
有限会社カリー観光	（Alipay、Pay Pay、J-Coin Pay）
東京バス株式会社	（Alipay、Pay Pay）
合同会社やんばる急行バス	（2020年より対応済み）

※●が本実証実験により利用可能となる決済方法です。
※合同会社やんばる急行バスでは、2020年よりVisaのタッチ決済に対応済みです。
※一部の路線、便ではご利用いただけない場合もあります。

令和4年度取組方針

これまでの取組内容・成果を踏まえ、今年度は以下の取組を実施し、**観光客の利便性向上**及び**公共交通観光の利用促進**を図る。

①観光系路線バスを対象としたコンタクトレス決済導入に係わる実証

❖昨年度より実施している観光系路線バスを対象としたコンタクトレス決済導入に関わる実証の継続実施

②観光客の公共交通利用促進に係わる周知広報

❖昨今のレンタカー不足に対して、観光客の公共交通利用促進（公共交通でも沖縄観光をできること、楽しめること）に資するWEBサイトの作成等

③オープンデータ化に伴う効果検証

❖これまでの観光2次交通事業で実施してきた内容を踏まえたオープンデータ化等に伴う効果検証

④さらなる観光2次交通オープンデータの整備に向けた取組

- ❖公共交通オープンデータ協議会より公開されたシェアサイクルのオープンデータ（GBFS）を活用し、既存の公共交通オープンデータ（GTFS）と組み合わせて、どのようなアウトプットが可能となるか等の検証を行う
- ❖また、公共交通オープンデータに対して、これまで対応が手薄となっていた観光情報のデータ整備ならびにオープン化に向けた検討を行う。具体的には、今年度は宮古・八重山地域を対象に、ビーチ等のデータ整備に向けた検討を開始

⑤OTTOPおよびオープンデータの利活用促進

❖これまでの観光2次交通事業で実施してきた内容を踏まえたOTTOPおよびオープンデータの利活用促進

※上記のうち、特に④、⑤については、補助事業を実施している沖縄オープンラボラトリと連携した取組を実施する。

①観光系路線バスを対象としたコンタクトレス決済導入に係わる実証

- ❖ウィズコロナ・アフターコロナの新たな生活様式への対応及びインバウンド需要回復を見据え、観光系路線バスにおいて、コンタクトレス決済（非接触型）の導入に関する実証実験を昨年度に引き続き実施する。
- ❖今年度は、沖縄バス（リムジンバス）、カリー観光、東京バスの3社の協力のもと那覇空港を発着する全路線を対象に実施する。

▼今年度の取組の概要（対象事業者、路線、決済手段、端末台数等）

会社名	対象路線	決済手段	決済端末
沖縄バス（リムジンバス）	・ 空港リムジンバス（全路線）	・ Visa のタッチ決済	14台
カリー観光	・ 北谷ライナー ・ パルコシティシャトルバス ・ 瀬長島ライナー ・ 美ら海ライナー	・ Visa のタッチ決済 ・ QR コード決済	6台
東京バス	・ 琉球ホテルエアポートリムジン ・ ハーレーエクスプレス ・ ウミカジライナー	・ Visa のタッチ決済 ・ QR コード決済	14台
合 計			34台



- ❖実証期間については、令和5年3月末までの期間を予定する。※現時点の状況として、東京バスは全台数設置済み。カリー観光については一部設置準備中。沖縄バス（リムジンバス）については設置準備中。
- ❖以下については、外部要因に起因する内容も含まれるが、実証期間中に対応できるよう検討・実施を進めるものとする。

- ・クレジットカードの決済手段について、JCBのタッチ決済にも対応できるよう調整を進める。
- ・効果検証について、利用実績の把握、利用者アンケート等を実施する。
- ・また、各バス会社から上がっている課題（決済の反応速度向上等）について、端末メーカー（小田原機器）と協議をしつつ適時対応・改善を進める。
- ・インバウンドについては、動向を踏まえつつ、対応準備を進める（決済端末自体は多言語対応済みであるが、端末の操作方法についての多言語補足資料の検討や周知・案内資料の作成等）。
- ・実証後の自走化について、ランニングコスト、メンテナンス体制等、早期から端末メーカー、各バス会社と協議・調整を行う。

②観光客の公共交通利用促進に係わる周知広報

❖観光客の公共交通利用促進を図るため、昨年度までに実施してきた周知広報の内容（オープンデータ整備によりGoogle Maps等で県内の全公共交通が検索可能となっていること等）に加えて、旅マエや旅ナカで、レンタカーがなくても公共交通での観光が可能、といった動機づけ情報を提供するWEBサイトを作成し、周知広報を図る。

- ➡「レンタカーがなくても沖縄で観光できる」と思ってもらえるメッセージ
（例）那覇一美ら海水族館は1日にバスが片道30本以上運行。
沖縄観光はバス旅が便利！お得に使える乗り放題チケットも。 など
- ➡その後に詳しい情報が見れるようなルートガイド、おすすめモデルコース等を掲載
- ➡詳細はGoogle Maps等で検索してもらうような導線設計 など

▼リーフレットの作成・配布



▼那覇空港サイネージでの案内



▼観光情報サイトとの連携(おきなわ物語、観光2次交通ポータルサイト等)



▼作成中のWEBサイト「おきなわのりもの旅～公共交通で沖縄を観光しよう～」



③オープンデータ化に伴う効果検証

❖これまで観光2次交通機能強化事業で実施したオープンデータ整備等の効果を検証するため以下の調査を実施する。

(1) 観光客アンケート調査

- ・観光客の本取組に対する認知状況や、公共交通の検索利便性の向上、不便・不満の有無等を把握するためのアンケート調査を実施する。
- ・具体的には、観光系路線バスの車内（座席）にQRコードを掲載したA4サイズのツールを設置し、WEBにて回答いただく。取組前の結果（過年度取得済み）と比較をすることで本事業の効果検証を行う。サンプル数としては1,000サンプル程度を想定する。

▼観光系路線バスの車内等にQRコードを掲載したツールを設置し、WEBで回収



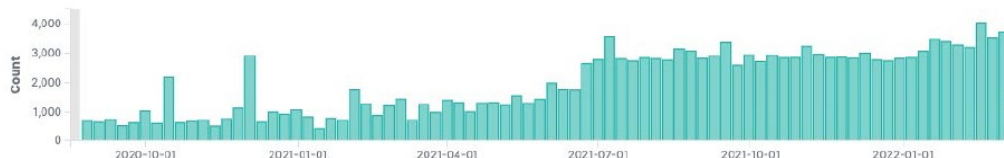
(2) 乗換案内サイトでの掲載状況調査

- ・大手検索サイト等における路線検索の可否状況を確認する。

▼昨年度までの大手検索サイト等における路線検索の可否状況の事前・事後の比較

調査時期	地域	Googleマップ	Yahoo! / 駅すばあと	ジョルダン	NAVITIME
①事前調査結果 平成31年1月時点	八重山	1/10事業者	2/10事業者	5/10事業者	4/10事業者
	宮古	0/6事業者	2/6事業者	2/6事業者	2/6事業者
	本島・その他離島	3/33事業者	17/33事業者	16/33事業者	14/33事業者
	①事前合計	4/49事業者 (8%)	21/49事業者 (43%)	23/49事業者 (47%)	20/49事業者 (41%)
	↓				
②事後調査結果 令和3年3月時点	八重山	10/10事業者	3/10事業者	4/10事業者	4/10事業者
	宮古	7/7事業者	4/7事業者	5/7事業者	5/7事業者
	本島・その他離島	38/38事業者	20/38事業者	22/38事業者	32/38事業者
	②事後合計	55/55事業者 (100%)	27/55事業者 (49%)	31/55事業者 (56%)	41/55事業者 (75%)
	↓				
③事後調査結果 令和3年10月時点	八重山	10/10事業者	5/10事業者	5/10事業者	6/10事業者
	宮古	7/7事業者	4/7事業者	6/7事業者	4/7事業者
	本島・その他離島	37/37事業者	20/37事業者	23/37事業者	31/37事業者
	③事後合計	54/54事業者 (100%)	27/54事業者 (49%)	34/54事業者 (63%)	41/54事業者 (76%)
	↓				
④事後調査結果 令和4年3月時点	八重山	10/10事業者	7/10事業者	5/10事業者	6/10事業者
	宮古	7/7事業者	5/7事業者	6/7事業者	4/7事業者
	本島・その他離島	37/37事業者	27/37事業者	23/37事業者	31/37事業者
	④事後合計	54/54事業者 (100%)	39/54事業者 (72%)	34/54事業者 (63%)	41/54事業者 (76%)
	掲載状況の割合の変化 (④-①)	+92pt	+29pt	+16pt	+25pt

▼オープンデータのダウンロード数、ダウンロードを行った地域



活用事例の調査

(那覇空港や市町村等での公共交通情報提供、海外サイトにおける活用例)



④さらなる観光2次交通オープンデータの整備に向けた取組

(1) シェアサイクル等のオープンデータの活用可能性検討

- ❖公共交通オープンデータセンター（ODPT）より、本年6月28日より提供開始されたシェアサイクルのオープンデータのうち、沖縄県内のデータが公開されているハローサイクリングのデータ（GBFS形式）を活用することで、OTTOPにより整備している県内の公共交通オープンデータ（GTFS形式）と組み合わせるとどのようなアウトプットが可能となるかの検討を進める（例えば、バスやモノレールと自転車を組み合わせたきめ細やかな観光地までのルート検索、など）。

(2) 公共交通オープンデータの新規路線、新規参入等への対応

- ❖これまでも定期的に確認し対応してきている内容となる。昨年度はうるま市の公共施設間連絡バスを対象に加えて、データ整備を行い、OTTOP上でオープンデータとしての配信を開始した。（GoogleMapsでも検索可能となっている）
- ❖基本的な情報入手体制は県内関係者とのネットワークにより構築されていると考えるが、今後も継続的な取組を行う。※2022年8月10日～2023年2月28日（予定）まで実証運行中の宮古島ループバスには対応済



▼うるま市の公共施設間連絡バスの概要



▼うるま市HP上でGoogleマップにて検索できるようになったことの掲載



④さらなる観光2次交通オープンデータの整備に向けた取組

(3) 観光情報のオープンデータ化に向けた検討

❖観光2次交通オープンデータの取組については、課題の重要性やデータ整備フォーマットの有無等の観点から、これまで公共交通オープンデータの整備を中心に進められてきた。

一報で、観光客が求める必要な情報を適切に流通させるという観点、MaaS等の新たなサービス創出を促進する観点等から**観光情報のデータ整備ならびにオープン化、継続的に利用できる体制構築**も重要となる。

▼観光情報の検索等に関する問題・課題の例

- ・施設・観光地の入り口や駐車場に行きたいが、位置情報がアバウトで検索結果通りいくと迷う（特にビーチや景勝地など）。
- ・WEBサイトによって、掲載されている情報が異なる（例えば遊泳可能期間など）。どの情報が正解かわからない場合がある。
- ・動的な情報の入手が難しい（例えば、今日はビーチで泳げるのか。自然ビーチの多い沖縄ではそもそもとして遊泳可能かどうか判断しづらい場合も）。
- ・自身の嗜好にあった情報が検索しづらい。 など

❖これまでの取組内容・成果、現状を踏まえ、今年度は以下の取組を実施することで、適切な観光情報の流通、新たなサービス創出を促進し、観光客の利便性・満足度の向上を図る。

▼今年度の取組方針

対象エリア	カテゴリ	検討内容	検討方法
宮古圏域 八重山圏域	ビーチ情報は必須 可能であれば自然、 景勝地等も対象に （地域と要協議）	①データ化する項目（基本情報、付加情報等）の検討とそれに基づくデータ整備 ②地域側との連携方法の検討（地域側での役割分担の検討、誰が情報をメンテナンスするか。支援ツールは？など） ③オープンデータとしての提供方法の検討と試行（活用方法の検討や（可能となる）アウトプットイメージの検討含む）	圏域ごとに自治体、観光協会、DMO等との勉強会を3回程度開催し検討を進める （第1回：10月下旬予定）

④さらなる観光2次交通オープンデータの整備に向けた取組

【参考:観光情報オープンデータの情報整理項目のイメージ】

※昨年度、OCVB、沖縄オープンラボトリ等とともに、ブレスト的に検討した情報整理項目案。この時はカテゴリを設定せず全般的な検討であったため、今回対象として想定するカテゴリの観光情報項目にそぐわない内容も含まれる。また項目の抽出を重視し、実現性や必要性の精査していない内容とはなるが参考として掲載。

区分	項目	説明	区分	項目	説明
基本情報	施設名称	施設の正式名称	アクセス関連情報	駐車場	駐車場の有無
	施設名称ヨミ	カナによる読み		駐車場台数	駐車場の台数
	施設名称略称	施設名称略称		駐車料金	駐車場の利用料金
	施設名称略称ヨミ	カナによる読み		最寄り高速IC	拠点、からの時間等
	住所	観光地の住所		最寄り高速ICからの距離	
	緯度経度	観光地の緯度経度		最寄りバス停	施設への2次交通でのアクセス方法
	営業日（休業日）	施設の営業日。休業日のほうがわかりやすいか。 定休日とイレギュラー（年末年始など）の扱い要検討		最寄りバス停からの距離	
	営業時間	施設の営業時間。以下詳細対応については要検討 ・休憩時間（昼営業と夜営業の間） ・最終入場時間やラストオーダーと営業終了時間 ・季節による時間変動		アクセスルート	近隣の交差点等からの経路
	電話番号	施設の代表番号		マップコード	カーナビに表示する際に使用するコード
	FAX番号	施設の代表FAX番号		エントランス位置	緯度経度
	施設紹介文章	施設の概要		エリア	GeoFence
	画像	画像の取得先URL	魅力発信・利便情報	メニュー・料金	提供メニュー・サービス及び料金
	URL	取得先のURL		利用可能支払い方法	現金以外の支払い対応（クレジットカードなど）
カテゴリ	カテゴリ	取得元サイトのカテゴリ		Wi-Fi有無	施設内Wi-Fi設備の有無
	サブカテゴリ	上記の下位カテゴリ		SNSアカウント	施設の公式SNSアカウント（以下、例）
				Twitter	
				Instagram	
				Facebook	
				施設紹介見出し（1行）	1行程度の概要見出し
			観光BF情報、安心情報	設備・サービス、バリアフリー対応	子連れ・シニアなどへの対応設備 ※下記を例とし具体例は検討
				車いすレンタル	車いすレンタルの有無
				ベビーカーレンタル	ベビーカーレンタルの有無
				身障者用トイレ(オストメイト)有り	身障者トイレ等の有無
				障がい者割引	
				適用有無	
				適用等級	
				適用割引料金	
				新型コロナウイルス感染対策	新型コロナウイルス感染への対策事項

⑤ OTTOPおよびオープンデータの利活用促進

❖ これまでの観光2次交通業務において整備したオープンデータ等について、様々な主体に幅広く活用してもらえよう、効果的な利活用促進に向けた取組を検討し実施する。

▼ 実施内容（案）

- ・コンテンツプロバイダとの継続的な意見交換
- ・市町村への訪問、個別意見交換
- ・イベント等での周知
- ・昨年度作成した動画の活用
- ・OCVBのメールニュース等による周知 など

▼ イベント等での周知

**おきなわ空想路線図を作る！
データ活用ワークショップ**

主催：OkinawaOpenDataChallenge2022実行委員会

みんなで考える。
「使いやすい公共交通って
なんだろう？」
データを通して考える。
交通・まちづくり・学生・
自治体・観光・ICT、
それぞれの視点から。

“見える”、“使える”へ！
“データ”が流行る中で
自らデータを触る経験を通して
データの良さ、可能性を実感
交通オープンデータを始め
流通しているオープンデータを
組み合わせ、“感覚”とは違い
データから「見える」ことを選び
現状把握や分析につなげる

**Okinawa
Open Data
Challenge
2022**

プレイベント(事前学習)
1st: 7月16日(土)
14:00-16:00 @ オフライン
2nd: 7月30日(土)
14:00-17:00 @ 沖縄県立図書館ビジネスルーム

メインイベント(本番ワークショップ)
2days: 8月18日(木)-19日(金)
10:00-17:00 @ 沖縄産業支援センター展示場

定員：20~30名
参加費：無料

参加申込

<https://compass.com/event/249130/>

▼ 昨年度作成した動画の活用



▼ 市町村WEBサイトでの活用(宮古島の例)

宮古島バスルート料金表

池間一周線

宮古島市役所 → 豊原駅前 → ジタヤ前 → 宮古郵便局前 → サンエー前 → 北極道駅前 → 北小前 → 宮古第一ホテル前 → 平良 → 西辺 → 成川入口 → 大橋入口 → 池間道入口 → 特別支援学校前

池間一周線

宮古島市役所 平良

計算する

140 円

時刻表

上り	7:20発	9:00発	10:30発	12:30発	14:20発	16:00発	18:00発	19:40発
池間道								

3. スケジュール

	～8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 観光系路線バスを対象としたコンタクトレス決済導入に係わる実証								
①実証実施								
②バス事業者、端末メーカー等の協議・調整（課題対応・改善等）								
③効果検証（実績確認、アンケート等）								
④次年度以降のスキーム検討								
2. 観光客の公共交通利用促進に係わる周知広報								
①プロモーションサイト（WEBサイト）構築								
②その他の取組（リーフレット、サイネージ、観光情報サイトとの連携等）								
3. オープンデータ化に伴う効果検証								
①観光客アンケート調査								
②乗換案内サイトでの掲載状況調査								
③オープンデータの利活用事例調査								
4. さらなる観光2次交通オープンデータの整備に向けた取組								
①観光情報のオープンデータ化に向けた検討								
・ 情報整備項目の検討とデータ整備								
・ 情報入手体制の検討（地域側との連携方法の検討）								
・ オープンデータとしての提供方法の検討								
・ 勉強会の開催（宮古圏域、八重山圏域）								
②シェアサイクル等のオープンデータの活用可能性検討								
③公共交通オープンデータの新規路線、新規参入等への対応								
5. OTTOPおよびオープンデータの利活用促進								
6. 検討委員会								